

生の声に耳を傾け、 一人ひとりに寄り添う

震災がつなぐ全国ネットワーク



団体概要

名称: 震災がつなぐ全国ネットワーク

設立: 1997年11月

事務所:

〒461-0001

愛知県名古屋市東区泉 1-13-34 名建協2階 レス

キューストックヤード内

役員: 6名

団体会員 42

個人会員 34

賛助会員 3

(2022年2月末日現在)



●震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)は、「生の声に耳を傾け、一人ひとりに寄り添う」という想いに共鳴する災害支援・防災NPO・ボランティア団体等の全国域のネットワーク組織です。

●阪神淡路大震災以降、これまで50を越える災害の被災地支援に関わっています。

震つな五箇条

私たち「震つな」は、地域防災・被災地支援の担い手として、

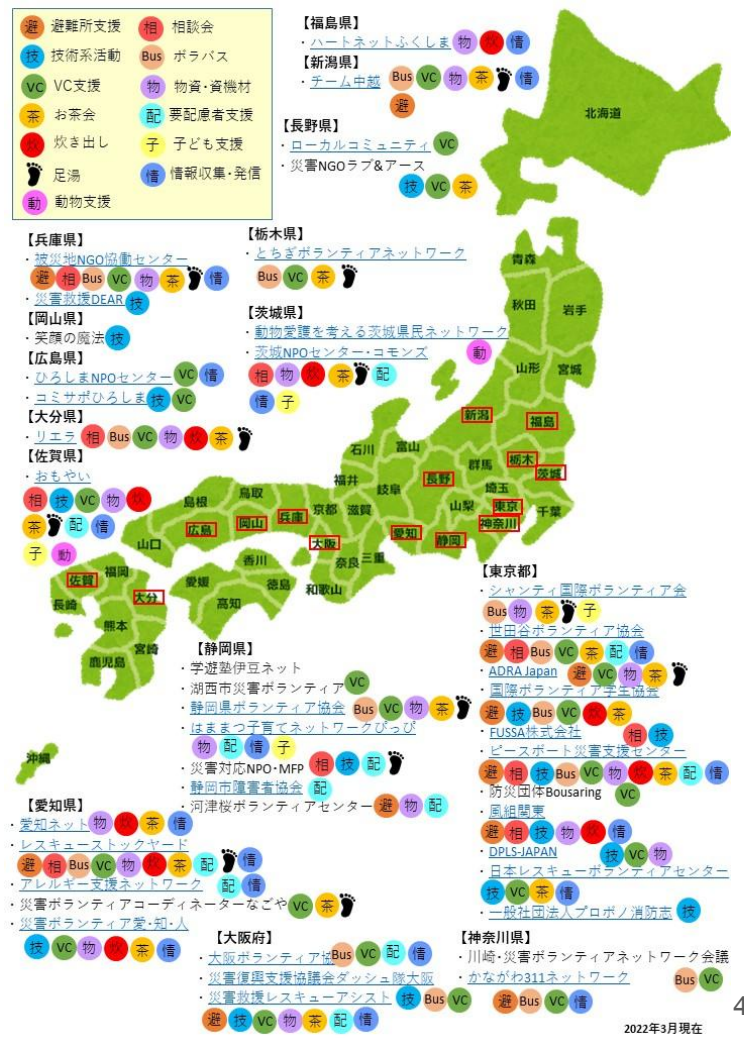
- 1.一人ひとりの命と暮らし、想いを大切にする。
- 2.地域の文化・歴史・人の声に耳を澄ませる。
- 3.支援のすき間を埋め、取り残される人や地域をつくらない。
- 4.様々な立場の人の考えを尊重し、学び合う。
- 5.地域の誰もが役割を見出し、果たせる機会を創り出す。



「足湯」は震つなの支援の象徴とも言える活動
東日本大震災では、日本財団のROADプロジェクトに参画、のべ延べ2,000人のボランティアを派遣し、16,000人の足を温めました。

専門性・強み

- 震つなの多くの会員は過去の被災地支援現場を共にしてきた支援団体がつながるネットワーク
 - 被災地で必要となる支援の見立てができる
 - 多種多様な専門性を持つ会員や関係団体と連携することで多様な支援の展開が可能
- 被災者一人ひとりの「生の声」を聴くことにこだわり、発信することそれに基づき何が出来るか考え・行動する
 - より声を上げにくい方ほど支援から取りこぼされる危険性が高い。被災者より発せられる声一つ一つを丁寧に聴き、小さくともそれに応えることで取り残される人をつくらない



緊急支援

- 資機材の貸与
- 避難所運営の支援
- 被災地支援団体スタッフの派遣
- 専門的ボランティアの活動支援
- 関係団体の活動状況把握(情報収集)・情報共有・発信
- 支援活動の検証
- 住宅復旧のための説明会・相談会の開催
- 冊子(水害にあったときに)の被災者への無料配布



2021年5月牧之原市突風被害被災地支援

2021年7月富士市水害被災地支援



2019年8月佐賀県での浸水後の対応勉強会

復興支援

- 過去の被災地の実践者をつなぐ
- 復興寺子屋の開催



熊本地震被災地支援
復興寺子屋in御船町
(新潟県中越地震を経験した子育て世代との交流企画)

同じ子育て世代の経験の共有が、今後の生活の見通しを持つことや安心感につながる



そろそろ暑くなってくるが木造仮設での暑さ対策はどうやっていいんだろう？他の人はどうしていたんだろう？

令和2年7月豪雨被災地支援
木造仮設住宅の住まい方オンライン相談会開催(仮設住宅のあれこれ～愛媛県西予市、熊本県御船町と繋いで～)



企画内で紹介のあった表札を作るイベントは後日地元支援者の協力により人吉の仮設でも実現

過去の災害からの教訓をカタチに

- KOBEの検証シリーズブックレットの販売
- 被災後に役立つツール(冊子等)の作成
- 全国各地での移動寺子屋の開催



連携事例

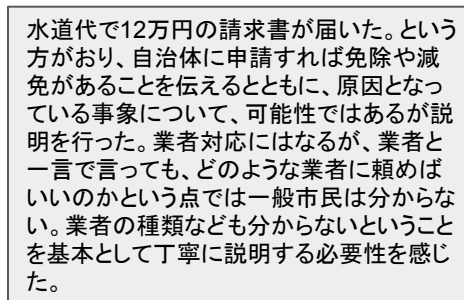
2018年西日本豪雨被災地支援

- 災害後の生活再建を考える無料ミニ相談会@坂町小屋浦（広島県）
 - 広島県災害復興士業連絡会からの呼びかけに弁護士・司法書士・建築士・社会福祉士の方々が応じ、協力いただいた。
 - 何を相談していいかわからない、士業の方にこんな相談していいのかわからないといった方にも気軽に専門家にご相談いただける機会となった。
 - 相談会に合わせ、参加された方々に一息ついていただける場づくりとして、炊き出しの協力をいただきながら、お茶会コーナーも運営。全体での説明のみで帰られる予定だった方や、個別相談の順番待ちの方にふるまうことができ、同時に、ボランティアらが住民と話せる貴重な機会となった。



弁護士・司法書士による法律・制度相談

担当した6件中4件が住宅再建に関する相談。60代以上は利息だけ支払えばよいという住宅金融支援機構の災害復興住宅融資を紹介した。多くの人が退職し、60～70代で息子達とは離れて暮らしており、なんとか元の場所には戻りたいが…という人たちがたということがわかった。



水道代で12万円の請求書が届いた。という方がおり、自治体に申請すれば免除や減免があることを伝えるとともに、原因となっている事象について、可能性ではあるが説明を行った。業者対応にはなるが、業者と一言で言っても、どのような業者に頼めばいいのかという点では一般市民は分からない。業者の種類なども分からないということを基本として丁寧に説明する必要性を感じた。



建築士らによる家の修理についての相談会

災害ボランティアも同席し水害後の消毒の相談にも対応



社会福祉士による生活状況のヒアリング

個別相談に並んでいる方とお話したが、不安が多く表情がすぐれない方もいた。炊き出しコーナーでは「相談会には来てみたけど、何を相談したらいいのかわからない」という声もあり、まだまだ心理的にも大変な状況が続いていることを実感した。

連携事例

2021年7月静岡県での大雨被害被災地支援

- 土砂災害が大きく報じられた熱海市以外に富士市・沼津市で浸水被害が発生、静岡県災害ボランティア本部(県V本部)より富士市・沼津市への水害対策に係る指導者の派遣の要請を頂く
 - 実施支援
 - 富士市
 - 災害救援レスキューアシストの派遣
7月7日-7月12日
 - 資機材貸し出し
 - 沼津市
 - 災害ボランティア愛・知・人の派遣
7月12日-8月22日
 - その他
 - 熱海市へのヘルメット貸し出し
 - 水害にあったときに送付

訪問活動の2件は、先日富士市社協職員が一件一件チラシ配りや声かけをしてくれたおかげで見つかった地域でした。本日住人さんの声を聞かせて貰うと家族や業者にやってもらったとの事、家族で片付けたお家の高齢夫婦のお話しでは息子さんが床下に潜って断熱材も少しは取った。全部は取ってないけど、とのことでした。
床下がどうなっているか動画を見て頂き、今後の対応を説明すると、息子さんと相談して必要なら災害ボランティアセンターに電話をさせて頂きました。



連携を進める上で期待すること

- 課題:活動分野を超えた日常からの課題共有・情報共有
 - 被災地支援団体の存在をもっと知っていただきたい
 - 平時よりおたがいの顔がみえ、双方の課題意識の共有が出来る事が、有事のスムーズな連携、支援から取りこぼされる方を作らない支援の展開につながるのではないのでしょうか。
- 課題:次なる災害に備えた人材育成
 - 災害に備えた取り組みにぜひ被災地支援団体も巻き込んでいただきたい
 - コロナ禍での災害対応、また広域災害が増えている現在、ますます地元人材の活躍が望まれます。被災地支援団体は様々な支援の知見・経験を持っているので、ぜひ平時の防災の取り組み等からご一緒できると、
 - また、各種災害での被災状況、その時被災者はどのような状況に陥るのか、生活再建までの道のり等、被災地支援団体は最前線で被災者の状況を見えています。このような情報を得ていただくことは行政関係者の皆さまが有事の対応をあらかじめイメージいただくうえでも有意義なものであると信じています。

最後に

- 私達の活動の出発点となった阪神淡路大震災当時から比べると、非常にたくさんの被災地支援団体、支援の担い手が増えてきたと感じています。その中でも「ネットワーク」に入っている方々は自分たちだけで活動するよりも他者と連携することが被災地の復旧・復興、被災者の生活再建を推し進めることにつながるという意識を持った方々になります。
- 被災地支援団体の中には発信力のある団体もいれば、そうではない団体もあります。ネットワーク団体としては少しでもこういった仲間の取り組みを吸い上げ、可視化をはかる努力がさらに必要だと感じています。
- 行政関係者のみなさまにも引き続き被災地支援団体の取り組みに関心をお持ちいただき、より迅速な被災地・被災者の復興に貢献する担い手として連携を検討いただけると嬉しいです。